

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400054		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら妹背牛		
所在地	雨竜郡妹背牛町字妹背牛406番地7		
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果市町村受理日	平成25年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvsvcoCd=0197400054-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvsvcoCd=0197400054-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年11月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のケアや、業務に関して、随時スタッフ同士の話し合いにより良い環境作りに取り組んでいます。  
また、穏やかな雰囲気の中、皆様笑顔で暮らしています。少しでも地域に貢献できるように、地域の皆様との関わりも大切に考えております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成20年12月1日開設、妹背牛駅から徒歩約5分で、近くには保育園、幼稚園、商店や交番があり、住環境や交通の便に恵まれている。木造平屋建てホームの居間・食堂は広くゆったりとして、テレビ、ソファやランニングマシンなどが備え付けられ、利用者は、テレビ体操や歌を歌い発声練習をして機能訓練に繋げている。居間には天窓があり、明るい日差しの中で思い思いにくつろぎ、編物をしたり、お茶や会話を楽しみ、ランニングマシンで歩行をしたりして、家庭的な雰囲気の中で、それぞれがゆったりとした日常生活を過ごしている。利用者の近況(生活面・医療面)を毎月、グループホームだよりに写真を載せて家族に知らせ、家族アンケートで要望を聞いて運営に反映させている。地域の行事にも積極的に参加交流し、保育園・幼稚園の運動会見学、幼稚園児の来訪、ボランティアによる琴演奏・踊りなど地域との交流も盛んに行われている。職員は明るく笑顔で家庭的な雰囲気を作り、利用者が持っている能力を引き出すようなアプローチをして、生き甲斐のある生活ができるよう支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが意見を出し合い理念を作った。ホーム内に掲示したりネームの後ろに記入することで把握し、実践に努めている。	全職員で作り上げた理念をホーム内に掲示し、ネームプレート裏面に明示して共有し、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入らせて頂き、町内の行事や町の催しに積極的に参加している。ボランティアの活用も行っている。	町内会に加入して、町内の行事(ジギスカン、ビンゴゲームなど)に積極的に参加し、保育園・幼稚園の運動会見学、幼稚園児が来て、遊戯・楽器演奏をしてもらうなど地域と積極的に交流している。	介護等についての理解を得るため、運営推進会議の場を利用するなど、地域に役立つ講演会を開催することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の話をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や取り組みを報告し意見を頂き、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、町職員、地域住民代表、民生委員、包括センター職員等が出席して、入居者・退去者の状況、行事、研修状況などの報告をして意見交換し、サービス向上に活かしている。認知症について話をして理解を得るようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加し、情報交換を行ったり、必要時連絡を取り合い協力関係を築いている。	地域ケア会議で情報交換し、毎月事業所の運営等について報告をして指導助言を得て、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束のないケアに取り組んでいるが、全員の理解は不十分。	内部研修で理解を深め、身体拘束排除宣言をホームに掲示し、身体拘束の自己評価を年2回行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。センサーを活用して、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で取り上げ、虐待防止に努めているが、全員の理解は不十分。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。現在、後見人の手続き中の方はいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月に改定となり、文書でお伝えしている。締結については十分に話し合い理解、納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や必要時は随時意見や要望を聞き反映に努めている。第三者苦情受付窓口を設置している。アンケートを年に1度行っている。	利用者の意見、要望は、日常の会話、じっくり話しを聞ける買い物などで利用者に寄り添ったときの会話の中から汲み取り、家族へのアンケート、家族来訪時の会話から意見、要望を把握し、全体会議で話し合っ、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見や要望を取り入れている。	運営者と職員は極めて風通りが良く、個人面談、ミーティング、全体会議で意見・要望を出して運営に反映させている。運営者は事業所を巡回し利用者の要望、職員の意見・要望を聞くよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行うなど把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを振り返る機会を作ったりホーム内外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月1回の地域ケア会議で交流の機会があるが、スタッフは研修などで交流する他は機会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談し話を聞き思いを汲み取って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い思いや要望を聞き信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力し合い生活できるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のより良いケアの為に話し合い協力しながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に応じて馴染みの場所へ出かけている。友人などの来訪時はゆっくりと過ごして頂けるよう関わっている。	馴染みの人や場所への利用者の思いに寄り添い、話題にするなどして、知人、友人、馴染の場所を把握し、買物、美容室、床屋、墓参など利用者の希望に添うよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように配慮しながら利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々ご家族と電話で話すことがある。必要に応じ支援していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は言葉や表情などから本人本位に検討を行っている。	日常生活の会話、しぐさなどから、必要な場合は家族の情報から、意向の把握に努め、把握した希望・意向を業務日誌に記録し、朝の打合せ、引継ぎで共有して、希望や意向に添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、記録などから情報共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎや記録などで把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、スタッフ同士で話し合い作成している。	利用者と家族の意向を反映しながら、関係者全員で情報提供、意見交換して、長期6ヶ月、短期3ヶ月毎に計画作成担当者が介護計画を作成し、本人・家族に説明し承認を得ている。状況に変化があれば本人・家族に説明し承認を得て変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や毎月のケアカンファレンスで情報共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化にあわせご家族や関係者と協力し合い支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人やご家族の希望を取り入れながら適切な医療を受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。職員が同行し、結果をアセスメントシートに記入し、状況に変化があれば家族に報告している。グループホームだよりで利用者の近況(医療面・生活面)について写真を添付して報告している。	

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に気付いたことを看護師に相談している。診療所へも定期的に情報提供し相談し、適切な受診、看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と連絡を取り合い早期退院に努めている。関係作りに関しては管理者以外のスタッフは不十分。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関してはご家族と書面で説明話し合っている。病院の方針にも立ち会いさせて頂いている。	重度化した場合について、契約時に利用者及び家族に説明し同意を得ている。利用者に急変があった場合は、医療機関と連携をとって緊急入院することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、マニュアルも作成しているが定期的な訓練は行っていない。個人で救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては定期的な訓練を行い地域との協力体制も築いているが、その他の災害時は不十分。	マニュアルに基づき年2回(日中・夜間想定)消防署の指導を受け、避難・消化訓練を実施している。一時避難場所を指定しているが家族へは未通知である。	通信網が破壊された時を予想して、家族等へ一時避難場所を予め通知することを期待する。火災以外の災害についても訓練を行い、地域住民との協力体制を築くことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねない対応に努めている。	外部研修、内部研修に参加し、声かけや心使いに努め、尊厳や誇りを損ねないケアをしている。個人情報保護方針を定め書類の保管に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞いたり、表情や言葉から読み取り、または提案するなどして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっていたり、外出など時間帯によっては希望に添えないこともあるが、出来る限りご本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、散髪、化粧など出来る限り支援している。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて一緒に行っている。	元気な利用者は職員と一緒に買い物、じゃがいもの皮むきなどを行っている。誕生会のメニューは希望を取り入れて献立し、サクランボ、りんごなど季節の食材を献立に取り入れ、職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立で提供している。水分が不足がちな方もいるが、状況に応じ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後ではないが一人ひとりに合わせ行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や情報交換しながら、その人に合わせた声かけや支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、職員が情報を共有して、適時に声かけ誘導して排泄の自立に努めている。現在おむつをしている人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や野菜を多く取り入れる、毎日身体を動かすなどの取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めさせて頂いているが、その中でご本人のペースで入浴できるよう努めている。	基本は週2回、14時頃からの入浴が多い。入浴を拒否する利用者には、意思を尊重しながら声かけに工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて休息したり睡眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を行うなど理解に努め、変化の確認に努めているが、不十分な部分もあり、今後も理解を深めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレク、一人ひとりの力に合わせた活動など行っている。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて外出支援を行っている。普段は行けない場所でも協力を得て対応したい。	利用者の希望に応じて買物、ひまわりの里見学、ドライブ、ベンチでの日光浴、散歩など外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望に合わせて所持して頂いている方もいるが、他の方はスタッフ管理で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や、温度調節、換気など居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居間兼食堂は広くゆったりし、天窓があり明るく、温・湿度の調整もされ、家庭的雰囲気です。テレビ・ソファ・ランニングマシン等があり、利用者は編物をしたりテレビを見たり、思い思いにゆったりと過ごしている。壁には利用者の作品が飾られ、季節の飾りを貼って居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置の工夫などでトラブルを避け、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物や好みの物を持ってきていただき居心地良く過ごせるようにしている。	居室には、使い慣れたタンス、テレビ、布団、冷蔵庫などを持ち込み、壁には写真などを貼って居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室にわかりやすく掲示し自立した生活が出来るよう努めている。		